

## 教員のICT活用指導力チェックリストの改訂について

### 1. 改訂の経緯

教員のICT活用指導力向上に関する政府方針、電子黒板やタブレット端末等の機器の整備状況など、ICT活用を取り巻く環境の変化及び「主体的・対話的で深い学び（アクティブ・ラーニング）」の視点からの授業改善の推進を踏まえ、文部科学省では平成27年度に「教員のICT活用指導力チェックリストの改訂に関する検討会」、平成28年度に「教員のICT活用指導力チェックリストの改訂等に関する検討会」（座長：清水康敬 東京工業大学名誉教授）を設置し、教員のICT活用指導力チェックリストの改訂を行いました。

（参考）

「ICTを活用した教育の推進に関する懇談会」報告書（中間まとめ）

平成26年8月29日

#### 4. 教員のICT活用指導力の向上

（2）具体的な方策

（ICT活用指導力の調査内容の見直し）

現在文部科学省が実施しているICT活用指導力の調査内容は、平成19年度から導入したものであるが、昨今のICT環境の進展に必ずしも対応した指標になっていないことなどから、有識者などによる検討会議により、調査項目などを再検討することが適当である。

「2020年代に向けた教育の情報化に関する懇談会」最終まとめ

平成28年7月28日

### Ⅲ 各分野における課題と対応

#### 5 教員の指導力向上や地方公共団体や学校における推進・支援体制

- 文部科学省では毎年、全ての教員を対象としICT活用指導力に関して調査を実施しており、授業中にICTを活用して指導したり、児童生徒のICT活用を指導したりできる教員の割合は着実に増加してきている。また、本調査の結果はKPI（重要業績評価指標）として活用されているとともに、その調査項目（「チェックリスト」と通称されている）は、教員が身に付けることが期待されるICT活用指導力の目安として役割も果たしている。
- しかながら、現行の調査項目については、ICT機器の進展に対応できていない、アクティブ・ラーニングの視点に立った授業改善の観点が不足しているといった指摘がなされている。文部科学省においては、統計調査としての継続性にも留意しつつ、これからの教育にふさわしい指標となるよう、調査項目の見直しを進めることが必要である。

## 2. 改訂の内容

### ①質問項目の改訂

#### (改訂前)

- A 教材研究・指導の準備・評価などに ICT を活用する能力
- B 授業中に ICT を活用して指導する能力
- C 児童の ICT 活用を指導する能力
- D 情報モラルなどを指導する能力
- E 校務に ICT を活用する能力

#### (改訂後)

- A 教材研究・指導の準備・評価・校務などに ICT を活用する能力
  - ・改訂前項目 E 「校務に ICT を活用する能力」を項目 A へ統合。
- B 授業に ICT を活用して指導する能力
  - ・改訂前項目 B を整理し、協働学習の要素を反映した質問項目を追加（B－4）
- C 児童生徒の ICT 活用を指導する能力
  - ・改訂前項目 C を整理し、基本的な操作技能の必要性、協働学習の要素を反映した質問項目を追加（C－1、C－4）
- D 情報活用の基盤となる知識や態度について指導する能力
  - ・改訂前項目 D 「情報モラルなどを指導する能力」を再構成。

#### 改訂前

A 教材研究・指導の準備・評価などに ICT を活用する能力
A-1 教育効果をあげるには、どの場面にどのようにしてコンピュータやインターネットなどを利用すればよいかを計画する。
A-2 授業で使う教材や資料などを集めるために、インターネットや CD-ROM などを活用する。
A-3 授業に必要なプリントや提示資料を作成するために、ワープロソフトやプレゼンテーションソフトなどを活用する。
A-4 評価を充実させるために、コンピュータやデジタルカメラなどを活用して児童（生徒）の作品・学習状況・成績などを管理し集計する。

B 授業中に ICT を活用して指導する能力
B-1 学習に対する児童（生徒）の興味・関心を高めるために、コンピュータや提示装置などを活用して資料などを効果的に提示する。
B-2 児童（生徒）一人一人に課題意識をもたせるために、コンピュータや提示装置などを活用して資料などを効果的に提示する。
B-3 わかりやすく説明したり、児童（生徒）の思考や理解を深めたりするために、コンピュータや提示装置などを活用して資料などを効果的に提示する。
B-4 学習内容をまとめる際に児童（生徒）の知識の定着を図るために、コンピュータや提示装置などを活用して資料などをわかりやすく提示する。

#### 改訂後

A 教材研究・指導の準備・評価・校務などに ICT を活用する能力
A-1 教育効果を上げるために、コンピュータやインターネットなどの利用場面を計画して活用する。
A-2 授業で使う教材や校務分掌に必要な資料などを集めたり、保護者・地域との連携に必要な情報を発信したりするためにインターネットなどを活用する。
A-3 授業に必要なプリントや提示資料、学級経営や校務分掌に必要な文書や資料などを作成するために、ワープロソフト、表計算ソフトやプレゼンテーションソフトなどを活用する。
A-4 学習状況を把握するために児童生徒の作品・レポート・ワークシートなどをコンピュータなどを活用して記録・整理し、評価に活用する。

B 授業に ICT を活用して指導する能力
B-1 児童生徒の興味・関心を高めたり、課題を明確につかませたり、学習内容を的確にまとめさせたりするために、コンピュータや提示装置などを活用して資料などを効果的に提示する。
B-2 児童生徒に互いの意見・考え方・作品などを共有させたり、比較検討させたりするために、コンピュータや提示装置などを活用して児童生徒の意見などを効果的に提示する。
B-3 知識の定着や技能の習熟をねらいとして、学習用ソフトウェアなどを活用して、繰り返し学習する課題や児童生徒一人一人の理解・習熟の程度に応じた課題などに取り組ませる。
B-4 グループで話し合っって考えをまとめたり、協働してレポート・資料・作品などを制作したりするなどの学習の際に、コンピュータやソフトウェアなどを効果的に活用させる。

C 児童（生徒）のICT活用を指導する能力
C-1 児童（生徒）がコンピュータやインターネットなどを活用して、情報を収集したり選択したりできるように指導する。
C-2 児童（生徒）が自分の考えをワープロソフトで文章にまとめたり、調べた結果を表計算ソフトで表やグラフなどにまとめたりすることを指導する。
C-3 児童（生徒）がコンピュータやプレゼンテーションソフトなどを活用して、わかりやすく説明したり効果的に表現したりできるように指導する。
C-4 児童（生徒）が学習用ソフトやインターネットなどを活用して、繰り返し学習したり練習したりして、知識の定着や技能の習熟を図れるように指導する。

C 児童生徒のICT活用を指導する能力
C-1 学習活動に必要な、コンピュータなどの基本的な操作技能（文字入力やファイル操作など）を児童生徒が身に付けることができるように指導する。
C-2 児童生徒がコンピュータやインターネットなどを活用して、情報を収集したり、目的に応じた情報や信頼できる情報を選択したりできるように指導する。
C-3 児童生徒がワープロソフト・表計算ソフト・プレゼンテーションソフトなどを活用して、調べたことや自分の考えを整理したり、文章・表・グラフ・図などに分かりやすくまとめたりすることができるように指導する。
C-4 児童生徒が互いの考えを交換し共有して話し合いなどができるように、コンピュータやソフトウェアなどを活用することを指導する。

D 情報モラルなどを指導する能力
D-1 児童（生徒）が情報社会への参画にあたって責任ある態度と義務を果たし、情報に関する自分や他者の権利を理解し尊重できるように指導する。
D-2 児童（生徒）が情報の保護や取り扱いに関する基本的なルールや法律の内容を理解し、反社会的な行為や違法な行為などに対して適切に判断し行動できるように指導する。
D-3 児童（生徒）がインターネットなどを利用する際に、情報の信頼性やネット犯罪の危険性などを理解し、情報を正しく安全に活用できるように指導する。
D-4 児童（生徒）が情報セキュリティに関する基本的な知識を身に付け、コンピュータやインターネットを安全に使えるように指導する。

D 情報活用の基盤となる知識や態度について指導する能力
D-1 児童生徒が情報社会への参画にあたって自らの行動に責任を持ち、相手のことを考え、自他の権利を尊重して、ルールやマナーを守って情報を集めたり発信したりできるように指導する。
D-2 児童生徒がインターネットなどを利用する際に、反社会的な行為や違法な行為、ネット犯罪などの危険を適切に回避したり、健康面に留意して適切に利用したりできるように指導する。
D-3 児童生徒が情報セキュリティの基本的な知識を身に付け、パスワードを適切に設定・管理するなど、コンピュータやインターネットを安全に利用できるように指導する。
D-4 児童生徒がコンピュータやインターネットの便利さに気付き、学習に活用したり、その仕組みを理解したりしようとする意欲が育まれるように指導する。

E 校務にICTを活用する能力
E-1 校務分掌や学級経営に必要な情報をインターネットなどで集めて、ワープロソフトや表計算ソフトなどを活用して文書や資料などを作成する。
E-2 教員間、保護者・地域の連携協力を密にするため、インターネットや校内ネットワークなどを活用して、必要な情報の交換・共有化を図る。

## ② 選択肢の変更

「わりにできる」、「ややできる」、「あまりできない」、「ほとんどできない」について、すべての選択肢を等間隔尺度とするため「わりにできる」を「できる」に変更しました。

改訂前
わりにできる
ややできる
あまりできない
ほとんどできない

改訂後
できる
ややできる
あまりできない
ほとんどできない